

発行日 平成 25 年 3 月 15 日

## 寒風沢島の現状

青宿 長南秀則



2011/12 青宿から陣中見舞い

### 2011年12月の訪問

左手前 兼夫、武、照光、仁美、後 石井、秀則、上條、清

2011. 3. 11 の東日本大震災と大津波の直撃により、寒風沢島は壊滅状態になった。棧橋は津波で流され、寒風沢水道付近の家はほとんどなくなってしまった。

震災から9ヶ月後、潮陽館が一部営業を再開したということを知り、2011. 12. 23 青宿から陣中見舞いを兼ね寒風沢島を訪問した。寒風沢島に近づくと、棧橋付近の建物は壊滅状態で、重機が瓦礫の撤去を行っているのが見えた。棧橋は津波で流されたため、島の東側の漁港付近に仮設の棧橋が作られ、船はUターンして寒風沢島に接岸した。

仮設棧橋には潮陽館のご主人長南兼夫さんが軽トラックで待っていて、潮陽館まで送迎。奥様とも平成22年1月以来約2年ぶりの笑顔の再開であった。

一行は、まず最初に共同墓地へ行き

五輪塔と長南和泉守の墓に献花した。高台のため、津波からは免れたようで安心したが、他の墓には墓石が倒れたり、ずれたりして修復した跡があるものもあった。また、墓地から見える田んぼは、いまだに潮水が入ったままの状態だった。

津波は外洋の方（東側）からではなく、島々を巡って塩釜港の方（西側）から押し寄せたようで、島の東側の漁港側より西側の塩竈側のほうが津波による被害は大きく、寒風沢棧橋から西側の建物は壊滅状態だった。震災時に潮陽館の西側にある電柱が倒れて、そこに流されてきた家や瓦礫が止められ、津波の水の流れが変わり、潮陽館が流されずに済んだのではないかとのことだった。

潮陽館は津波のため1階の半分ほどの高さまで浸水したということだが、現在は以前と同様に復旧しているようだった。漁港そばの牡蠣の作業場は、地盤沈下と浸水のため使えない状態で、寒風沢の人は桂島まで行って牡蠣の作業をしているとのこと。東側の漁港（漁船が停泊しているところ）も隆起したり沈んだりしたところがあり、空き地には鉄くず、木片、流木など仕訳された瓦礫の山が10mほどの高さにいくつも積み上げられており、流されたと思われる軽トラックも1カ所に集められて20台以上重なっていた。

## 2012年12月の訪問

2012年12月に、青宿の照光さん他が、震災後2度目の訪問をしているが、瓦礫は撤去され、浦戸小学校跡に仮設住宅が建てられ、政義さん夫婦をはじめ島の住民は徐々に戻って来ている。棧橋の後ろ側の住宅はすべてなくなってさら地になっていた。また、津波の影響で、甚大な被害を受けた田んぼや畑は、その後の復旧事業やボランティアの活躍等により、田んぼの一部は田植えが出来るようになったとのこと。

ライフラインも震災前にほぼもどり、以前のように島が活気づくと信じている。

**寒風沢島の皆様、また、この度の大震災と津波で被災した皆様には心からお見舞い申し上げます。**



瓦礫の撤去作業中



浸水している牡蠣作業場



田植えが終わった田んぼ

# モロコ35キ、手ごたえ

磯釣り、大物求め 45年 長南守（伊東市）



伊東市の長南（おさなみ）守さんは、釣り仲間から「磯釣り名人」と呼ばれる腕前の持ち主。45年前に磯釣りの魅力に取りつかれて以来、数々の大物を釣り上げてきた。

一番の手ごたえと達成感を感じたのは、体長136センチ、重さ35キのモロコ。1989年9月5日、下田の横根島本場で釣った。シマアジも110センチ、12.5キを筆頭に100センチ前後の大物を上げ、魚拓にしている。ポイントは下田沖の横根島や沖横根が中心だが、コンディションによっては南伊豆町の中木や入間にも足を延ばし、イシダイやメジナ、イサキも狙う。

守さんは群馬県出身で、若いころは扁桃腺を腫らし高熱を出すことが多かったという。

医者の勧めもあって、空気のきれいな伊豆へ移住した。ホテルに勤める傍ら、月2〜3回磯釣りを続けた。「大好きな自然や海に囲まれ、大物と格闘することで、すっかり健康な体になった」と守さん。

「退職後は”母なる海”で、自分の好きな釣りをゆっくりやらせてもらっている。また大きいのを釣りに行きたいね。」と笑顔で話した。

平成24年11月28日 伊豆新聞記事より

## 「ちょうなん」と「おさなみ」

長南守さんは、「おさなみ」さん。長南姓は「ちょうなん」、「おさなみ」と読み方が異なるが、東北地方の一族が北海道に移住した時に「おさなみ」と変えたと云われている。守さんは、先祖が北海道出身であり、鶴岡市にもゆかりがあるという。超能力者で鶴岡市出身の長南年恵は当時の新聞で「おさなみとしえ」と紹介されている、これは弟の雄吉が、商売の関係で「おさなみ」と名乗っていて、取材に応じたとき「おさなみ」と伝えたからではないか。鶴岡には「おさなみ」と読む世帯は1軒もないので、長南年恵は「ちょうなん」が正しい。以前、みのもんたのTV番組で長南年恵が紹介されたが、その時は「ちょうなん」だった。中村就一さんと長南成（しげる）さんが出演しているので、そう説明したのだろう。

# 我が人生を決定したもの

中村就一

本誌の編集を新しく交替した長南秀則氏から原稿依頼があったが、この正月で90才になった小生は、目も耳もかすみ、全く人間の能力を失ってしまったのでハタと困った。なにしろパソコンのワープロでさえ使い方を忘れてしまったので、さんざんいじってみたもののダメで、筆書の原稿となった次第。

でも会員の方には今さらと笑われるかも知れないが、全国長南会の運動について、この機会に振り返って報告することも意味があるかもしれないと思った次第である。

小生は学生時代に肺結核で休学したが、近所の老翁がニワトリを飼って卵売りの生活をしているが、本職は占いだと聞き、興味をそそられて訪ねた。

翁は分厚い和書をめくり、ソロバンをはじき、やがて語った。

「お前の病気は来年6月13日に治る。それから大きな仕事をするから忙しくなる。」その日は11月だったから、なんと半年後の予言である。半分頭を傾けながら翁の許を辞した。

当時は高崎郵便局に勤めていたから通信診療所の内山医師が往診してくれていたが、その頃のある日に「君の病気は治った。来週から歩いて診療所に来なさい。」と言った。当時はストレプトマイシンは未だ発明されておらず、結核はいずれ必ず死に至る病として知らされていたからおどろいた。

しかし翁の予言どおりなのには、改めて6月13日という日付に目をみはった。



翁はいかなる技術でこの日を予言できたのか。小生はすぐに翁の所へゆき、予言の的中について尋ね、その技術を教えてほしいと頼んだが、翁は「ワシは、この年まで後継者を求めてきたが、徒労だった。」という。でも念のために、小生の生年月日などを聞き、分厚い本をめくり、やがて、「残念だが、お前にはその才能がない。」と言う。がっかりしていると、「それより、お前は伊勢神宮にお参りしたか。」と聞くので否定すると、「お前はいずれお参りする。」と告げた、神宮の神様はお前をかわいがっていると言うのである。

翁はその後間もなく連れ合いの老妻を榛名山のふもとの実家に帰したあと、ニワトリを処分したお金をもって町会長に「ワシは間もなく死ぬから、この金で葬式を頼む」と差し出した。

その日に、翁は座禅をしたまま死去したという。

## 学徒動員

当時、学生は在学中は徴兵延期されていたが、沖縄へ米軍が猛攻をかけ始めた頃には、その余裕もなくなり、学徒動員となった。昭和18年12月1日、小生は宇都宮市の輸送部隊に徴兵され、トラックの運転訓練を受けた。ところが年が明けるとすぐ「お前らは強運だ。」と教官に告げられ、ポカンとしていると、「お前らはガダルカナルの戦線に行くことになっていたが、ガダルカナル島は撤退となった、行き先がなくなったからどこへでも行け。」と宣言された。これが軍隊かと驚いたが、ウソではなかった。

なぜか小生は気象部隊にあこがれがあったので、その通りとなったが、転属前夜に航空通信に変わったと告げられた。ところが隣のベッドの候補生が「オレ航空気象に変わった。」と言うので、持っていたテキストを交換して翌朝、軍用列車で南へ向かった。

あとで知ったことだが、彼の父親で県内のバス会社社長が、部隊長に頼んで、息子の行き先を小生と替えたのだった。航空通信と聞いててつきり飛行機に乗るものと決めて、心配しての行動だったが、替わった小生が着いたのは基地用大型無線の部隊だった。

そこで4カ月トンツ一の訓練で閉口した。どこでもそうだが、週番士官が交替すると、毎週1回は非常呼集があって、夜中にたたき起こされて完全武装でかけあしで出発する。

少しゆくと「敵は撃退されたから、これから帰る。ついでだから神宮に参拝する」とあって、伊勢神宮に毎週参拝となった。

しばらくして、占いの老翁の言葉を思い出した時には、心底から驚いた。

## ガダルカナルから仏印へ

4ヶ月の訓練の終わりに、ここでも配属先の希望を出せ、と言われた。小生は学生時代フランス映画に夢中だったから、迷わずフランス領インドシナ（今のベトナム）に希望を出した。

400名の候補生は、満州、支那、内地などが多く、どんどん出てゆき、やがてガラんとした兵舎に3名だけ残った。でも命令がないので、3名で本部に行き「自分たちはどうなっているのでしょうか。」と聞けば、「お前らは希望はどこだ。」と言うので、「仏印です。」と言えば、「バカ、そんな所今どき行けん。」と言う。ポカンとしていると、「どこへでも好きな所へ行け」と言われた。

東京は空襲でダメだから途中の安全な所ということになり、静岡県と申し出たら磐田の聯隊への命令が出た。

知らないのは自分たちだけで、日本の敗北は決定的だったらしく、最後の決戦場である沖縄へ全軍を投入しつつあったのだ。

ところが京都で足止めされて8日間、市内をあてもなく歩いた後に列車に乗ると、神戸ではノロノロ運転となった。先日の大空襲で鉄道が吹き飛ばされて、急ごしらえのレールを行くと、わきの道路を歩いている娘さんと話げできた。

「兵隊さん頼みます。」

「オーまかせとけ。」

下関の海底トンネルを抜けて九州に入り福岡を出たと思ったら、突然下車の命令。大宰府だった。

後で知ったのだが、沖縄が米軍に占領されたのだった。九州の人は九州だけで米軍と戦うと勇ましく叫んでいたが、夏休みの

小学校に宿泊していた私達は、校庭に整列して、敗戦の天皇のお言葉を聞いた。

軍刀1本かついで、群馬県へ向かったものの、二日市の駅に着いたが、その日の列車はないので、駅のベンチにごろ寝

していると、通りかかった奥さんが我が家に泊れと言うのでついて行った。

小さな家だったが、蚊帳を吊った寝床を与えられ、すぐ寝入ってしまったが、夜中に目を覚まして気付くと縁側で奥さんと娘が並んで外を向いて座っていた。

あとで気付くと、ここは4畳半が1間きりで、小生が占領していたので、親娘は、とうとう寝なかつたらしい。

(つづく)

## 源義経蝦夷渡海ノ図 歌川芳虎作



### 義経北行伝説

源義経は、壇ノ浦で平家を滅ぼした後、兄の源頼朝に疎まれ、奥州藤原氏のいる平泉へ逃げた。しかし、義経をかわいがってくれた平泉の当主、藤原秀衡が死に、後を継いだ藤原泰衡は頼朝を恐れて義経を殺してしまった。義経を討った泰衡も、結局頼朝に滅ぼされてしまうが、義経のかわいそうな最期に同情したのか、義経は平泉で殺されたわけではなく、実は泰衡のはからいで北海道へ逃れたのだ！という伝説が登場した。義経は平泉で殺されたのではなく、北海道あるいは大陸へ逃れたのだと云う。

義経北行伝説の進化版として、有名な義経成吉思汗(ジンギスカン)説がある。義経は北海道へ逃れた後、大陸に渡って、モンゴルの英雄成吉思汗になったという説だ。この錦絵は江戸時代末期から明治時代初期に制作された版画を印刷した原画で、「義経蝦夷渡海ノ図」です。長南忠春の名前があります。現在、中村就一さんが所蔵していますが、当会の会員にお譲りします。(38,000円)

希望者は、中村さんに直接連絡してください。TEL/FAX 04-7166-XXXX

# 世界が舞台

## 人とのつながり大切

長南里佳（新庄市出身）

今は毎日気温が40度にもなりますが、湿気の多い日本に比べると過ごしやすい気がします。ヨルダンではイスラム教徒がほとんどなので、私も夏でも肌が見える格好を控え、ラマダン（断食）の時期は外での飲食を控えます。



中央の手を上げている女性が里佳さん

子どもたちは「何が大事？」と聞くと、すぐ「アッラー（神）と家族」と答えます。深い信仰心の上に成り立っており、ヨルダン人にとっての幸せは家族、その中には確実に子どもの居場所があり、必要とされています。どんなに貧乏でもどんな劣悪な環境でも彼らは家族がいると幸せなんだと感じます。人々とのつながりは幸せにつながるということを、どこに行っても感じさせられます。

5月にマダバの六つの幼稚園対抗の運動会を開催しました。宗教や国の違いに戸惑いながらの準備、運営となりましたが、それでも人々のつながりに救われました。まず女性が外で体を動かすことはよくないという考えがありました。そこで、運動遊びが幼児期に与える影響について理解を得ることから始めました。

先生が取り入れることができ、子どもたちが遊びながらルールを学び、休づくりができることを一緒に考えました。先生たちは、大家族で常に家に小さい子がいる環境で育っており、私の方が勉強になりました。

次に準備の問題です。玉入れの玉は、新聞とビニール袋で手作り。どこの家にもあ

る物ですが、新聞にはコーランが所々に掲載されており、それを丸めたり投げたりすることはとんでもないこと。先生や保護者と一緒に使って良いページと悪いページを仕分けしながら準備を進めました。

本番。子どもたちは大好きな先生や保護者に見守られ、緊張したり、張り切ったり、応援したり、喜んだり、悔しかったりと、さまざまな顔を見せてくれました。

保護者競技では、全身布で覆われた敬虔（けいけん）なイスラム教徒のお母さんが、こぞって子どもの応援に夢中になり、われを忘れ綱引きを手伝ってしまったりする姿もありました。先生たちは運動会を通し、情操教育の重要性を少なからず感じました。徐々に「子どもにとって」ということに重点を置き、先生たちと話すことが増えたのは大きな成果といえます。

5月末、金銭的な問題で卒園式が行えなくなったにもかかわらず、先生と保護者の皆さんが私のためにサプライズ・パーティーを企画してくれました。裕福とはいえない子ばかり

ですが、拙い文字で書かれた手紙や、家で作った香水、ネックレスなど小さな手にいっぱいプレゼントを持った皆から「ありがとう」と言われました。

今まで生きてきて、こんなに感謝されたことはありません。残りの任期も悔いが残らないよう、人とのつながりを大切にしながら活動を進めて行こうと思います。

## 横顔

ちょうなんさとか 神奈川県内の幼稚園や都内の保育園に勤務後、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊に応募、2010年度にヨルダン・マダバに派遣される。職種は幼児教育。山形県新庄市出身

### 近況をお知らせください



中村さんより、長南会通信の編集を引き継ぎ、これが最初の発行になります。できるかぎり、皆様のご意見を反映したものにしたいと考えております。皆さんの研究の成果や、身の回りで起きたこと、新聞雑誌で紹介された「長南」にまつわることなどを、お知らせください。

300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930

長南秀則 TEL/FAX 029-887-XXXX

できれば、e-mailで、テキストやWordの文書を添付していただくと編集が楽です。また、インターネットでも「全国長南会通信」を配信します。なにか、ご意見ご希望がありましたら、ホームページから e-mail などでお願ひします。

ホームページアドレス <http://www.ne.jp/asahi/chonan/kenkyu/>

e-mail [ch0330@support.email/ne.jp](mailto:ch0330@support.email/ne.jp)

### 年会費納入のお願い 口座番号が変わりました

振替用紙を同封しますので、年会費1口2,000円をお振り込みください。

郵便局のキャッシュカードをお持ちの方は、振替用紙を使用しないでATMから次の口座にお振り込みください。

**全国長南会 記号 10650 番号 13085711**

ATMからだと、手数料(会負担)が無料になります。

全国長南会の運営のため、ご協力お願いします。